

## 2 花ひらく縄文文化

旧石器時代が終わり、稲作が伝わった弥生時代が始まるまでを縄文時代といいます。1万年以上もつづいた縄文時代は、日本の歴史でもっとも長く続いた時代です。人々は木の実やけもの、鳥、魚、貝などを食料にしていました。たて穴住居に住み、縄文土器を使って生活していました。市内では芹谷野段丘より東側の山地や庄川の上流部で遺跡がたくさん見つっています<sup>①</sup>。



①原因はわかりませんが、縄文時代中期から遺跡が爆発的に増えます。市内の遺跡のほとんどが中期から後期の遺跡です。



石錘 網のおもり  
(富山県埋蔵文化財センター蔵)



### LET'S WORK 8

どうして松原遺跡からたくさんの土器が出土するのか、考えてみましょう。



松原遺跡から出土した縄文土器 たて穴住居1棟からまとめて出土しました。(砺波市埋蔵文化財センター蔵)

### まつばらいせき 松原遺跡

庄川の上流部にある遺跡です。庄川の段丘の上から大正時代に見つかりました。

今からおよそ4,000年前の縄文時代中期に栄えた遺跡です。松原遺跡からは多くの土器が見つっています。完全な形の土器が1棟のたて穴住居から20個以上出土したところもありました。

石器は、打製石斧や石錘が見つっています。石錘は、細長くて平らな石の上下を打ち欠いて作った石器です。魚をつかまえる網のおもりや編み物の道具として使われました。庄川を泳いでいるサケやマス、アユをつかまえていたのでしょう。

旧庄川町には、このほか金屋ポンポン野遺跡があります。



へびの文様をつけた縄文土器 松原遺跡出土  
(富山県埋蔵文化財センター)

### たて穴住居

昭和49年に発掘されたときの様子  
(松原遺跡)





発掘の様子 昭和51年（厳照寺遺跡）

埋甕（厳照寺遺跡）

## 厳照寺遺跡

芹谷野段丘の上にある縄文時代中期の遺跡です。これまでにたて穴住居が11棟も見つかっています。

住居は弧状集落の形で、典型的な縄文時代の集落といえます。住居の中から「埋甕」が見つかりました。埋甕は住居の床に埋めた土器で、亡くなった胎児を入れておさめ、おまじないをしたと考えられます。直径16cm、深さ13cmの土器が埋められていました。

この遺跡から出土する土器を「厳照寺式土器」といいます。この土器は、土器の外側に「蓮華文」や「爪形文」とよばれる文様があるのが特徴です。また、花卉の曲線を半截竹管（半分に割った竹）で模様をつけたものもあります。

## 久泉遺跡

扇状地の扇中央部にある遺跡で、縄文時代中期から後期にあたります。この遺跡

からは、川原石を打ち欠いてつくった打製石斧とよばれる石器が250本以上出土しています。この石器は土を耕したり、穴を掘ったりする道具です。使い込んですりへったものや、半分で折れてしまったものが見つかりました。しかし、住居も土器も出土しないため、人々が生活していなかった遺跡と考えられます。

久泉遺跡は、ヤマイモやユリの根などの根茎類（地面の下に茎が育つ植物）を採集した場所だったようです。



徳万頼成遺跡の土偶（砺波市埋蔵文化財センター蔵）  
※写真はほぼ実大（高さ9cm）



久泉遺跡の打製石斧（砺波市埋蔵文化財センター蔵）

## LET'S WORK 9

打製石斧を使ってどのように植物を採集したのか考えてみましょう。

## LET'S STUDY! 空白の時代

市内には、弥生時代の遺跡がほとんどありません。

それは人々の生活が植物の採集や動物の狩りから、稲作を中心とした生活に変化したことが原因です。稲作は多くの水を必要とするので、人々は水がにじみ出ている、扇状地の扇端部に移り住んだと考えられます。同じ理由で、古墳時代に入っても市内には人が定住しなかったため、有力者の古墳も造られませんでした。



中尾遺跡の御物石器（福岡・厳照寺蔵）

